

魅力小説挿絵の

特別展

— 文芸作品に伴走して



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

2021年
10月30日(土)
12月19日(日)

【開館時間】9時30分～17時(入場は16時30分まで)
【休館日】月曜日、ただし11月1日(月)は開館。

新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、会期は変更となる場合があります。
その際はホームページ等でお知らせします。

【観覧料】

一般500(400)円 高大生250(200)円 中学生以下・65歳以上無料

* ()内は10名以上の団体料金

* 土曜日、文化の日および学校教育活動の一環として観覧する高校生、学校教育活動の一環として観覧する引率教員、児童・老人施設に入所している方とその引率者、身体障害者手帳等をお持ちの方とその引率者、生活保護を受けている方等は無料となります。

【主催】北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社

【後援】北海道、札幌市、札幌市教育委員会 【協力】小樽芸術村(公益財団法人似鳥文化財団)

中島公園

北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

TEL. 011-511-7655 <http://www.h-bungaku.or.jp>

ART
GALLERY
HOKKAIDO

①野口昂明画「怒電(丸橋忠弥)」(中山義秀作)挿絵原画 1955(昭和30)年 ②木田金次郎画「蛙のコンペ輪(随筆)」(木田金次郎作)挿絵原画 1946(昭和21)年 ③生沢朗画「黒い風土」(松本清張作)挿絵原画 1959(昭和34)年
④阿部典英画「金融破地獄」(杉田望作)挿絵原画 2000(平成12)年 ⑤羽生輝画「挽歌」(原田康子作)挿絵原画 1980(昭和55)年 ⑥佐藤泰治画「天使の時間」(高見順作)挿絵原画 1956(昭和31)年
⑦佐藤忠良画「続お登勢」(船山馨作)挿絵原画 1972(昭和47)年 ⑧御正伸画「江戸っ子侍」(柴田錬三郎作)挿絵原画 1960(昭和35)年 *①③⑤⑥「北海道新聞」ほか掲載、②「北方風物」10号掲載、④⑦「北海道新聞」掲載、⑤「剣路新聞」掲載、⑧は阿部典英氏蔵、他は当館蔵。

小説挿絵の魅力—文芸作品に伴走して

新聞や雑誌などの連載小説をはじめ、文芸作品にはさまざまな挿絵が添えられています。挿絵は主に物語の一場面を図示するものであり、読者の理解を助長するとともにイメージを広げるなど重要な役割を担っています。洗練された線描で描かれた人物やその背景、あるいは風景や自然など、さまざまな場面を生き生きと伝えるすぐれた挿絵には、画家たちの豊かな感性が示され、美術作品としても高く評価されています。

本展では、戦後から現代までの新聞連載小説につけられた数々の挿絵原画に焦点をあて、肉筆原稿や書籍などの各種資料と対比しつつ、文芸作品に伴って生み出された挿絵の魅力をさまざまな角度から紹介します。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

- ①阿部典英画「どらねずみ」(桃谷方子作)挿絵原画 2003(平成15)年 阿部典英氏蔵
 - ②向井潤吉画「暖かい町」(檀一雄作)挿絵原画 1958(昭和33)年 当館蔵
©Mieko Mukai 2021/JAA2100264
 - ③安里英晴画「明日のことは知らず」(宇江佐真理作・文春文庫・2015[平成27]年)表紙絵原画 当館蔵
 - ④佐藤忠良画「石狩平野」(船山馨作・河出書房・1967[昭和42]年)扉絵原画 当館蔵
 - ⑤御正伸画「江戸つ子侍」(柴田鍊三郎作)挿絵原画 1959(昭和34)年 当館蔵
 - ⑥小磯良平画「古都」(川端康成作)挿絵下絵 1961(昭和36)年 小樽芸術村蔵
 - ⑦羽生輝画「海霧」(原田康子作)挿絵原画 2002(平成14)年 釧路文学館蔵
 - ⑧生沢朗画「黒い風土」(松本清張作)挿絵原画 1959(昭和34)年 当館蔵
- *①「北海道新聞」掲載、②⑤⑦「北海道新聞」ほか掲載。

【会期中のイベント】

◇文芸サロン

日本画家の私が描く挿絵—小説「挽歌」「海霧」との日々

11月6日(土) 14:00~15:00 当館講堂(無料)

講師：羽生輝(日本画家、本展出品作家) 聞き手・進行：野村六三(当館副館長)
・要申込：10月21日(木) 9:00から電話受付(先着順/定員25名)

◇特別講座

小磯良平の小説挿絵の魅力—小樽芸術村収蔵の下絵を中心に

11月21日(日) 14:00~15:00 当館講堂(無料)

講師：金澤聡美(小樽芸術村学芸員)
・要申込：11月4日(木) 9:00から電話受付(先着順/定員25名)

◇上映会

本展出品作・小磯良平画「古都」(川端康成作)挿絵下絵にちなんだ上映会です。
「古都」(川端康成原作/中村登監督/岩下志麻・宮口精二ほか/1963年/106分/DVD上映)

12月11日(土) 13:30~ 当館講堂(無料)

・要申込：11月25日(木) 9:00から電話受付(先着順/定員25名)

◇見どころ解説

11月18日(木)、25日(木)、12月2日(木)

各日14:00~(約30分)

当館講堂(無料・申込不要・先着順/定員25名)

講師：当館学芸員

新型コロナウイルス感染拡大により変更が生じた場合は、ホームページ等でお知らせします。

●常設展のご案内／北海道の文学(通年開催)

北の大地に育まれた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示。

観覧料：一般500(400)円、高大生250(200)円*()内は10名以上の団体料金。

65歳以上、中学生以下無料。高校生は土曜日、文化の日は無料。*詳細はお問い合わせください。

●常設展文学館アーカイブ 「文学者たちの色紙」10月22日(金)~12月26日(日) 常設展示室内
小説家、詩人、歌人、俳人、川柳作家たちが遺した色紙の数々をご覧ください。

●次回・特別展のご案内

「よみがえれ! とこしえの加清純子」再び 2022年1月22日(土)~3月21日(月・祝)

観覧料金：一般700(560)円、65歳以上の方・高大生450(360)円、小中生300(240)円

ご来館のお客様へ/入館にあたってのお願い

- ◇発熱や体調不良等の風邪症状のあるお客様は、ご来館をお控えください。
- ◇館内入り口にて検温を行います。37.5℃以上の発熱が認められた場合、入館をお断りします。
- ◇咳エチケット、ソーシャルディスタンスにご協力ください。
- ◇マスクの着用をお願いします。

緊急連絡先記入のお願い

来館者や職員に新型コロナウイルスによる感染者が発生した場合に、その事実を皆様にお伝えするため連絡先の登録をお願いしています。

北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

交通案内：地下鉄南北線【中島公園駅(出口③)】または

は【幌平橋駅(出口①)】から徒歩6分

市電「中島公園通」停留所下車徒歩10分

JRバス・中央バス「中島公園入口」より徒歩4分

【お問い合わせ】

TEL:011-511-7655

<http://www.h-bungaku.or.jp>

施設設置者：北海道教育委員会
(教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課(代)011-231-4111)

指定管理者：公益財団法人北海道文学館

フェイスブック、
ツイッターでも
情報発信中!

